

XT500

1976年 / 市販車

ヤマハ発動機初の4ストローク単気筒エンジン搭載車。

後のシングルロードスポーツ・SR500/400のルーツにもなったモデルとしても知られている。

競技用エンデュロマシン TT500をベースに開発され、公道走行が可能なビッグシングル・トレールモデルとして、その優れた耐久性や強力なトルクを発するエンジン、高いトラクション性能、139kgの非常に軽量な車体、名車 SR にも引き継がれた、フレームにオイルタンクの役割を持たせる画期的な『オイルタンク・イン・フレーム』を新開発。

デザインは「DT シリーズ」のイメージを踏襲しつつ、より本格的なオフロードスタイルを追求したシンプルで無駄を削ぎ落とした機能美が特徴。

79年に開催された第一回パリ・ダカールラリーで仏「ソノートヤマハチーム」が同車でワンツーフィニッシュを飾るなど、モータースポーツでも活躍し、北米のみならず欧州でも大人気モデルとなった。

1976 - TT500



COMMUNICATION
P L A Z A